



建築人

7

2018

大阪ホンマもん



ANTICA OSTERIA
CON PIZZA
Dal POMPIERE

TAV

Tokyo
Angel

建築人

7

2018

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	Gallery 建築作品紹介
	堺の家
	設計 井上久実設計室 施工 西友建設
	町屋 河京富月
	設計 横関正人+横関万貴子/NEO GEO 施工 アール・ワン
11	記憶の建築 松隈 洋
	香川県立高松西高等学校 一九七七〜八二年
	地域愛と情熱が生んだ学校建築
12	匠の巧
	素材と向き合う木製建具 株式会社ウッドワークス
	住まい・まちづくり教育が目指す先
14	建築の射程 橋本頼幸
16	第10回建築人賞発表
26	理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築士会の活動について

公益社団法人大阪府建築士会
特任顧問 上田 茂久



社会は人口減少、少子高齢化の時代を迎えています。各建築団体は会員減少が続く、財政状況も厳しい状態になっています。ともすれば会員へのサービス低下を招き、さらに会員が減少するという負のスパイラルに陥ってしまいます。大阪府建築士会は、このような状況下、質を落とすことなく、「建築士に対する支援」と「社会への貢献活動」を軸に、活動を行っています。スキルを磨く様々な研修、講演会、見学会、研究会等で建築士の資質の向上をめざし、ここで培った職能を生かして社会に対し貢献活動を行っています。また、的確な社会貢献ができるように、行政や各他団体と協定を結び、協力体制を築いています。震災時の建築物応急危険度判定は約六〇〇名の士会会員判定士が在籍して、大阪府、枚方市と派遣協定を締結しています。既存木造住宅の耐震では、本会耐震部会所属の診断員六〇余名を擁し、大阪府、大阪市、東大阪市、防災センターと連携を取り、耐震事業の推進を図っています。また、弁護士、宅建士、鑑定士の専門団体と協力協定を結び、紛争解決、インスペクション、空家対策等に取り組んでいます。会員の皆様には、今一度、建築士会の社会的役割を認識いただき、社会貢献活動にご参加をお願いします。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪を代表するビジネス街である中央区に小さなレトロレストランがある。以前に取り上げた大阪倶楽部の斜め向かいにある「今橋ビルディング」を取り上げたい。

元々は、大阪市中央消防署今橋出張所として計画された。街路の北側に建つ消防署の間口はおよそ六mほどで、構造は鉄筋コンクリート造、三階建てとされた。竣工は大正一四年（一九二五年）で、大阪倶楽部の方が一年先輩となる。一階部分は消防車庫に十分な天井高を確保し、外壁はタイル貼りとされた。ファザードの一階は上部櫛形の大きな開口部の構えとし、上階の窓をチューダーアーチ形で縁り、二階部分のみに小さなバルコニーを設けた。華美ではないが、一部に花模様のレリーフを設けるなど、およそ消防署の出張所とは思えないほど凝った意匠が散りばめられた。

建物は消防署の出張所として、竣工から平成八年（一九九六年）までの間利用された。その後、役割を終えて一〇年のあいだ大阪市の倉庫として利用された。しかし財政難を受け競売にかけられたが、運良く心ある個人オーナーが取得した。耐震補強などを施し、イタリアン・レストランにコンバージョンされ、「アンティカオステリアダルボンピエーレ」として再生させた。この奇跡は簡単に起こせるものではないが、今も残る消防署の丸い赤ランプが記憶として受け継がれ、「大阪ホンマもん」を呼び起こしてくれるものと信じていたい。

竹中大工道具館見学会 7/7 CPD3単位

地域分科会北摂とシニアサロン、国際委員会で竹中大工道具館見学会を企画します。

大工道具に関する歴史とその実際、さらに建築としての竹中大工道具館について解説を聞きながら見学します。また7/16まで企画展、藤竹居一藤井厚二の木造モダニズム建築が開催されていますので、これも合わせて見学します。

日時 7月7日(土) 13:00~16:30
受付12:30から(会場入口付近)

会場 竹中大工道具館
神戸市中央区熊内町7-5-1

解説 西村章(竹中大工道具館副館長
…建築)
森ゆかり(竹中大工道具館学芸員補
…大工道具等)

募集 40名
参加費 建築士会会員1,000円
学生500円 会員外1,500円
入館料込

MIRAIZA OSAKA-JO(ミライザ大阪城)&豊国神社秀石庭見学会 7/21 CPD3単位

「MIRAIZA OSAKA-JO(ミライザ大阪城)」は旧第四師団司令部庁舎として1931年に建てられ、市立博物館としても使われていましたが、博物館閉館後16年の時を経て、昨年複合商業施設として生まれ変わりました。リノベーションを担当された大和ハウス工業株式会社より設計担当者を講師にお迎えし、設計から工事に至るお話を伺ったうえで、講師と一緒に建物を見学します。また、大阪城豊国神社にある、大きな岩が特徴の「秀石庭」も見学いたします。通常は非公開ですが今回特別にお願いしました。多くの方のご参加をお待ちしております。見学会後に屋上レストランで懇親会を行います。(BBQ、フリードリンク付き4,980円予定)

日時 7月21日(土) 14:00~17:00
集合 本会議室13:30より受付開始
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
(資料代等含む、懇親会費別)

定員 40名(申込先着順)

住宅を設計する仲間達 オープン勉強会 建築士のためのセミナー 〜ペットと暮らす〜 8/20 CPD2単位(予定)

家族・友人として暮らすのは、人間だけではなく、ペットと暮らし、心を通わせ、日々の暮らしを共有している住まいも少なくありません。集合住宅でも、高齢者をはじめ小家族の心の拠りどころに配慮して、ペット禁止から条件付き容認の方向に進んでいるようです。宿泊施設・商業施設・公共施設においても、ペットと一緒に出かける、ペットと一緒に泊まるということは、特別ではなくなってきた感もあります。実際、そのような特集記事や情報は、大変注目されているようです。今回は「建築知識 猫特集号」で大きな反響を呼んだ講師を迎え、今や建築士にとって避けて通れない、ペットに関する基本知識と応用事

例を勉強したいと思います。

日時 8月20日(月) 18:30~20:30
会場 大阪府建築士会会議室
講師 斉藤晴雄
一級建築士事務所斉藤建築設計室代表
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※住宅仲間達登録者は無料
定員 50名(申込み先着順)

「空間を語る」建築家講演会 9/7、9/14、9/20

椎名英三氏、竹山聖氏、大西麻貴氏の3人が交互に空間魅力についての「語り手」と「聞き手」になってトークリレー方式で解説することにより、空間に込められた思いへの理解を深め合う企画。

建築界の閉塞感を打破し、楽しく元気に建築の夢と魅力について考え、ともに語り合おう。

日程 9月7日(金)、14日(金)、20日(木)
開場 18:00 講演 18:30~19:40
対談 19:50~20:40
終了後、懇親会(参加費4,000円)

場所 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

参加費 (各回)学生・入会3年以内の会員1,000円
会員・後援団体会員2,000円
一般3,000円

出演 椎名英三、竹山聖、大西麻貴
モデレーター 山口千乃

下水汚泥処理場・ゴミ処理場から 環境を考える 9/8 CPD3単位(予定)

大阪市環境事業局舞洲工場や舞洲スラッジセンターは、「人間の出したゴミをいかに自然に戻すか」を理念として、ファンデルトヴァッサーが設計しました。今回はゴミ問題に焦点を当て、改めて環境問題について、これらの施設を見学して考え直す機会としたいと思います。

日時 2018年9月8日(土)
13:00~14:30 スラッジセンター
15:00~16:30 舞洲工場
集合 12:45分集合(時間厳守)
舞洲スラッジセンター1階
エントランスホール前
(大阪市此花区北港白津2-2-7)

募集 20名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
懇親会 JR西九条付近にて開催

越井木材工業株式会社 工場見学会 「不燃・防火・熱処理木材を学ぶ」 9/10 CPD2単位(予定)

建築基準法改正により、木材利用の合理化が進展する中、高い木材処理技術をお持ちの越井木材工業株式会社の工場見学会を開催します。

不燃・防火木材、熱処理木材、その他建材等についてご説明の後、工場内を案内いただき、大阪市内で広範な種類の処理木材を一気に理

解することが可能です。

日時 9月10日(月) 15:30~17:00
懇親会17:30~
会場 越井木材工業株
(大阪市住之江区平林北1-2-158)
定員 30名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
懇親会費 4,000円程度

第61回建築士会全国大会 さいたま大会 10/26

今年の建築士会全国大会は、埼玉で開催致します。会員には大会登録料5,000円を補助致します。

テーマ 歴史に感謝 未来に約束
日程 10月26日(金)
会場 大宮ソニックシティ
※全国建築士フォーラム、全国ヘリテージャーネットワーク協議会総会は10月25日(木)に実施。
※地域交流見学会(エクスカーション)は10月27日(土)に実施。
申込 建築士5月号P31の参加申込書に必要事項をご記入の上、本会事務局に7月31日(火)までにご提出下さい。
大会の詳細は「建築人5月号」をご覧ください。

Administration

行政からのお知らせ

大阪市消防局からのお知らせ 建物の増改築等の際の消防法違反について

テナント入居や建物の増改築により、知らない間に消防法違反となっている場合がありますので、これらをお考えの方はまずは消防署に相談してください。

HP [「大阪市テナント入居」](#) [検索](#)

平成30年度建設リサイクル法説明会(第1回) 7/25

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」のほか、建築物等の解体等作業に伴うアスベスト関係法令等に関する説明会を開催します。

主催 大阪府内建築行政連絡協議会建設リサイクル部会
(大阪府と建築主事を置く府内17市で構成)

日時 7月25日(水) 13:30~16:30
(受付開始13:00)

会場 大阪府庁新別館南館8階大研修室
大阪市中央区大手前3-1-43

最寄駅 地下鉄谷町四丁目
定員 466名

内容

- 建設リサイクル法の概要について
- 建設業法における解体工事業の新設について
- 労働安全衛生法、石綿障害予防規則について
- 大気汚染防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例について
- 建設廃棄物の適正処理と再資源化について
- PCB廃棄物等の適正管理について

参加費 無料
申込期間 5月25日(金)~7月18日(水)
(ただし、定員になり次第締切)

問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
審査指導課開発許可グループ
Tel.06-6941-0351(内線3092)

電子申請による申込HP
http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_shinsa/recycle_index/index.html

豊中市木造住宅等除却費補助制度

豊中市では、庄内・豊南町地区の木造住宅等の除却費の補助を実施しています。

対象となる建物 昭和56年5月31日以前に建築された木造の建築物

制度運用期間(予定)
平成30年4月2日(月)~平成31年3月29日(金)

その他、補助率、補助限度額、対象となる区域、申し込みの詳細については、豊中市のホームページで「除却費補助」と検索してください。

Others

その他のお知らせ

第41回住宅メンテナンス診断士® 講習会(大阪開催) 8/7 CPD5単位

木造住宅の「診断・評価や維持管理」の基本技術の講習会です。京都大学大学院農学研究科藤井義久教授による木造住宅の大きな課題である木材劣化についての講義も実施します。認定試験のない「講習コース」も実施します。

主催 (一社)住宅長期支援センター
日時 8月7日(火)
①講習&資格認定試験コース 9:25~16:50
参加費 27,000円
②講習コース 9:25~15:55
参加費 19,000円

会場 新大阪丸ビル別館4階4-1会議室
大阪市東淀川区中島1-18-22

最寄駅 JR新大阪駅(東口徒歩約2分)
定員 80名(先着順)
締切 7月31日(火)
但し、定員に達し次第締切

問合 (一社)住宅長期支援センター
Tel.06-6941-8336
<http://www.hols.or.jp/>

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

6月18日早朝に発生した大阪北部地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。本会では、行政の要請により応急危険度判定士を派遣し、判定活動を行っています。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成30年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能)

7/12、9/21 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。

日程 7月12日(木)、9月21日(金)

時間 8:55~17:00

会場 大阪府建築士会会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

建築士会にもとづく建築技術講習会 渡邊竜一講演会

7/13 CPD2単位

ベルギーを本拠地に橋梁デザインの第一線で活躍されるNey&Partners日本事務所代表の渡邊竜一氏を講師に迎え、長崎の出島表門橋を筆頭に様々な地域で市民協働を通じながら公共における土木、建築、構造デザインを展開している、その取り組みをご紹介頂きながら、設計スタンスやこれからの設計についてお話いただきます。

日時 7月13日(金) 15:00~17:30

会場 イトーキ大阪ショールーム

定員 110名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員2,000円

後援団体会員3,000円

一般4,000円

学生(大学院生含む)1,000円

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》

8/10・1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法で、伝統構法の本造建築物の耐震診断等に用いられます。

日程 ①8月10日(金) ②1月29日(火)

時間 9:30~16:00

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 各120名(定員になり次第締切)

受講料 会員6,000円 会員外8,000円

テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

既存住宅状況調査技術者講習 新規講習8/21、10/11 CPD5単位 移行講習8/2 CPD3単位

平成28年6月に宅地建物取引業法の一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に既存住宅状況調査が義務付けられました。調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められ、新たな建築士業務となります。なお、従来のインスペクター登録者は同調査を実施できませんが、その方々を対象に規定の講義の一部を免除した移行講習も開催します。

<新規講習>

日時 8/21(火)、10/11(木)

10:00~17:50

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

定員 100名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,060円

郵送申込21,600円

<移行講習>

日時 8/2(木) 13:00~17:50

会場 大阪府建築士会

定員 40名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込16,740円

郵送申込17,280円

<申込方法>

日本建築士会連合会HPよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/

大阪府知事指定講習 平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》

9/4・12/5 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 ①9月4日(火) ②12月5日(水)

時間 10:00~15:50

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 各100名(定員になり次第締切)

受講料 会員5,000円 会員外9,000円

テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

平成30年度建築士定期講習

9/18、10/22、11/28、12/18

CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場

9/18(火) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-52

10/22(月) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-03

11/28(水) 大阪府建築健康会館6階ホール
定員90名 会場コード5C-53

12/18(火) 大阪府建築健康会館6階ホール
定員90名 会場コード5C-04

時間 9:25~17:00(各講習日共)

申込書必着日 9/18(火)講習:8/17(金)

10/22(月)講習:9/18(火)

11/28(水)講習:10/26(金)

12/18(火)講習:11/13(火)

※各回定員に達し次第、受付を終了します。

受講料 12,960円(消費税含)

申込書配布・受付場所

大阪府建築士会事務局

(会場コード5C-03、5C-04)

大阪府建築士事務所協会事務局

(会場コード5C-52、5C-53)

建築技術教育普及センターHPにてWEB申込みも可能です。

https://jaeictkosyu.jp/jaeictaikosyu/

大阪府知事指定講習 「建設工事の安全・健康確保講習会」

9/25、10/24、11/19、12/11

CPD各回3単位

本講習会は、設計、施工等の各段階における安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組み方法についての講習を行い、労働災害防止に関する建築技術者の安全と健康を確保することを目的としており、テーマを変えて4回実施します。また、本講習受講により取得された現場管理技術者のCPD単位は、大阪府公共建築室が発注の条件付一般競争入札(実績評価型)において、H31年度から評価点を取得できます。

日程・テーマ

①9/25(火) 建設災害の状況、安全管理の実施事項、労働災害の責任など

②10/24(水) 労働安全衛生法、通路・足場の安全管理・火気危険物の扱いなど

③11/19(月) 各種届出書類、土留・型枠支保工・鉄骨工事の安全対策など

④12/11(火) 仮設計画のポイント、職業病予防、解体工事の安全対策など

時間 13:30~17:05

会場 大阪府建築士健康会館6階ホール

講師 建設業労働災害防止協会及び(株)奥村組、(株)大林組、大日本土木(株)、(株)竹中工務店の安全管理担当者

定員 各回100名(定員に達し次第締切)

受講料 建築士会会員3,000円/回

後援団体会員4,000円/回

一般5,000円/回

(4回通し受講の割引あり)

平成30年度 大阪府ヘリテージマネージャー育成講座(全9日間) CPD1日4単位または6単位(予定)

本講座は、文化庁の補助を受け、大阪府のさらなる歴史文化遺産を発見し、既に指定されている文化財建造物や登録文化財等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材「ヘリテージマネージャー」を育成することを目的に行う講習会です。全9日間の講座(講義時間数は例年通り合計40単位)で歴史、修復技術、実測実習、保存活用などの基礎を学びます。

日程 全日程土曜日開催予定

(第1回は8月25日(土)開講)

時間 13:00~17:00

(但し内2回は10:00~17:00の予定)

募集 20名(申込先着順)

受講料 会員25,000円 会員外30,000円(予定)

詳細発表 7月23日(月)(予定)

第62回大阪建築コンクール 受賞者講演&トークセッション

7/6 CPD2単位(予定)

第62回大阪建築コンクール受賞者による講演と審査委員とのトークセッションです。

日時 7月6日(金) 19:00~20:40

会場 大阪工業大学梅田キャンパス

OIT梅田タワー2階 セミナー室203

大阪市北区茶屋町1-45

参加費 無料(申込不要)

会長動静

- 5/28 大阪府採用委員会
- 5/29 大阪府建築士事務所協会総会
- 5/31 近畿外壁仕上業協同組合総会
- 6/ 4 近畿建築士会協議会女性部会
大阪府不動産鑑定士協会総会
- 6/ 5 大阪地方裁判所総括判事来訪
- 6/ 7 近畿建築士会協議会臨時会長会議
日本建築材料協会KENTEN・表彰式
- 6/ 8 京都府建築士会総会
- 6/11 大阪府採用委員会
大阪市都市計画局長、整備局長訪問
- 6/13 近畿建築確認検査協会総会
- 6/20 日本建築士会連合会総会
- 6/21 日本建築協会総会

運営部門

府内 43 市町村首長訪問を開始

府内市町村首長訪問は、平成 25 年度の公益社団法人移行から毎年実施しており、今年で 6 年目を迎えました。市町村訪問は、岡本会長をはじめとする本会役員及び地元で活動する会員とともに市町村首長や幹部職員と面談し、市町村が取り組む政策と関係の深い本会の社会貢献活動状況の報告と意見交換を行って、市町村との連携強化を図ることが目的です。今年度は 6 月 11 日の大阪市の都市計画局長及び都市整備局長訪問からスタートしました。両局長は今年度から着任されておられます。



(左)高橋 徹 大阪市都市計画局長



(右)篠原 祥 大阪市都市整備局長

両局長との面談では、本会女性委員会編集による「安心・安全安らぎの家」の外国人向けに英語版を刊行したことや、文化庁補助金により作成した「富田林市寺

内町建築マップ」や「大阪文化財ナビ」のサイトを紹介し、地域のヘリテージ活動を地元行政と連携して進めていくことを、刊行物をお渡しして説明しました。その他、府内市町村との連携・支援メニューである防災・耐震・まちづくり・建築相談・住環境向上・空家対策・審議会等への建築士派遣などの多岐に亘る本会活動は、これまで実績を積み上げ強化していることをご説明しました。今後訪問する市町村首長にも同様に、これら本会の取組みをアピールします。

運営部門

本会の組織名称の変更

5 月度理事会の承認を経て、細則第 10 条を改正し、本会組織の委員会・分科会の名称をそれぞれ部門・委員会に変更しました。これは、分科会を委員会に格上げして、他府県建築士会の組織構成と横並びとし、本会の委員会活動のモチベーション向上につなげるものです。また理事の役職は、従来の委員長を部門長の常任理事とし、委員会の担当理事は委員長としました。

大阪府建築士会災害対策支援本部

大阪北部地震発生に伴う本会の対応状況

6 月 18 日早朝に発生した大阪北部地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

●協定に伴う地震発生当日の対応

枚方市との避難所の応急危険度判定活動の協定に基づき、地震発生当日の午後 4 時 45 分からの避難所の判定活動を行い、そのうち 1 ヶ所は天井材落下が危惧されることから、避難所の使用は不可としました。また、大阪急性期・総合医療センターとの同様の協定に基づき、地震発生約 90 分後に本会判定士が医療センターの職員とともに病棟等の判定活動を行い、地震による被害は無いことを確認しました。また、大阪府の要請で大阪府中央卸売市場の判定活動を府職員とともに、構造躯体に問題はないものの、間仕切りや天井に大きな変状がみられましたが、卸

売市場の業務継続に支障がでる被害ではないと判断しました。

今回の地震では、震源近くに在住の判定士は自宅が被害を受けた方が多く、一方、震源から離れた地域の判定士は、交通がストップして参集が困難となり、迅速な判定活動は限られるという現実が判明し、今後の課題が浮き彫りになりました。

●応急危険度判定活動

大阪府との応急危険度判定士派遣協定に基づき、大阪府から地震発生翌日の 6 月 19 日に、島本町及び大阪市北区、高槻市、茨木市への派遣要請がありました。島本町は庁舎等の緊急を要する町施設のため、近隣の判定士 2 名を直ちに派遣しました。その他の市は本会の判定士連絡網により、会員判定士全員に参集可能者を募ったところ 129 名から参加可能な回答がありました。本会は大阪府の指示により茨木市の応急危険度判定の担当となり、6 月 20 日から 6 月 28 日までの判定活動に延 69 名の判定士を茨木市に派遣しました。今回の地震による判定士への連絡は、日頃行っている連絡訓練と比べて、携帯電話による伝達が円滑に行えなかったことや、判定士への E メールが届いていないケースがあり、今後の改善課題が残りました。なお、今回の判定活動に参加していただいた本会会員には、(公社)日本建築士会連合会から 1 人 1 万円支給される予定です。

●被災者に対する建築相談

今回の地震でブロック塀の危険性がクローズアップされ、本会の電話相談が大阪府及び東大阪市・吹田市等の市町村から、ブロック塀に関する府民・市民からの相談窓口指定されました。マスコミからも取材を受け、NHK ニュースや毎日新聞等で紹介され、地震発生以降、毎日多くの電話相談があり、相談委員会では当番の相談員を 1 名から 2 名に増員し、専用電話も増設して 1 人でも多くの方の相談に対応できるよう努めています。

6/20	6/21	6/22	6/25	6/26
16 件	10 件	19 件	20 件	14 件

ブロック塀に関する電話相談件数

ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター・旧一津屋公会堂見学会に参加して

日程：平成30年4月27日（金） 会場：ダイキンテクノロジーセンターほか 参加者：24名



佐賀弥章（理事）

大阪市東・大阪市北・北河内・みしま野地域の合同企画の第37回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）を受賞した「ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター」及び「旧一津屋公会堂」の見学会に参加しました。

ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンターは同社淀川製作所の中にあり、水平線が強調された重厚ながらも軽快なファサードを持ち、太陽光発電は当然として、地熱、自然循環冷房システム、太陽光自動追尾採光、遮熱塗料など様々な試みが成され、自然エネルギーをパッシブ・アクティブ両面から最大限に利用しようと計画された建物です。

館内では、設計者である日建設計の方と、ダイキン工業関係者に案内していただきました。1階の「啓発館」では過去の空調関係の機器の展示があり、ミニ博物館

のようでした。3階「知の森」と名付けられたスペースでは、社内外の方々の打合せが行われており、活発に利用されている雰囲気を感じました。4～5階にまたがるオフィスの中間階に「ワイガヤステージ」と呼ばれる空間を設け、部門を越えた打合せスペースを設けるなど、タテヨコの動線に工夫を感じました。700人が就労しているとはいうものの、一人当たりの占有面積が大きく、ゆとりある執務空間でした。

屋上には、自動追尾型の太陽光パネルが備えられ、室外機の効率を上げるために実験的に設けたミストシャワーは「風があると効果が得られないことがわかった使えないシステム」などのお話も聞くことができました。

ダイキンテクノロジーセンターを後に、10分弱徒歩で移動し、「旧一津屋公会堂」

に到着。旧公会堂は、大正時代に建てられた芝居小屋であり、興味深い楽屋や、舞台、2階の栈敷席にも立ち入ることができ、参加者個々に写真を撮るなどし、時間が過ぎてゆきました。

執務空間というのは就労者にとって一日のかなりの部分を過ごす空間であり、その快適性の追求は、合理性・生産性と有機的につながり、企業にとっては投資を怠らないことを心がけたい大切な部分であり、ダイキン工業の姿勢を感じることができた見学会でした。



新入会員歓迎企画セミナー：まちと町屋 —都市に住むことの意味と私たちの歴史を考える—

期間：平成30年5月18日（金） 会場：修成堀江ラポ 参加者：52名



山本尚子（事業部門 女性委員会委員）

5月18日（金）、女性委員会では新入会員歓迎企画として、本会副会長で京都大学大学院人間・環境学研究所教授の中嶋節子先生を講師にお迎えし、「まちと町屋 —都市に住むことの意味と私たちの歴史を考える—」というテーマでセミナーを行いました。

「まちや」を漢字で表すと「町屋」か「町家」となりますが、京都では「町屋」は「店舗」、「町家」は住居を指しているらしく、町の中で商売をしながら暮らすために街道沿いに軒を並べる住宅の形態として考えるのであれば、今回は「町屋」というのが合っているとのことでした。

まず「町屋」とはどういうものなのか、町家のルーツを辿るところからお話はスタートしました。

町屋の定義ですが、形態的には①道路に面している②軒を接して並んでいる③間口規模が小さいこと、機能的には「店と

住居が一体」であることで、そのほか地域によってもそれぞれ特色があります。起源は過去の文献により平安時代末期とされています。

町屋の形は、通り土間を片側に部屋を並べる基本形から、規模が多くなるにつれ店棟（表）+玄関（中庭）+住居棟（座敷）と棟が二つに分かれる形に変化した「表屋造り」という形が町屋の完成形となります。

都市に暮らすことのポイントは家屋敷を所有する「家持（いえもち）」と「借家人」がいることで、「家持」だけが町の構成員、いわゆる町人として認められていたこと、大阪では圧倒的に借家人が多かったこと、家を貸すのに「裸貸（はだかがし）」と「付貸（つけがし）」の2種類があって、屋内のほとんどを借主が用意する「裸貸」は大阪独自の方式だということなど、「町屋」という言葉は知っては

いましたが、本当はあまりよくわかっていなかったことを詳しく教えていただき、大変興味深かったです。

今回は賛助会員でもある修成建設専門学校のご協力で学校の施設である「修成堀江ラポ」を会場にお借りしたこともあり、多くの学生さんの参加がありました。中には熱心な質問を下された方もいて業界の未来も明るいのでは・・・と勝手に感じたりしました。今後も是非、若い方が多く参加できる企画を期待します。



セミナー風景

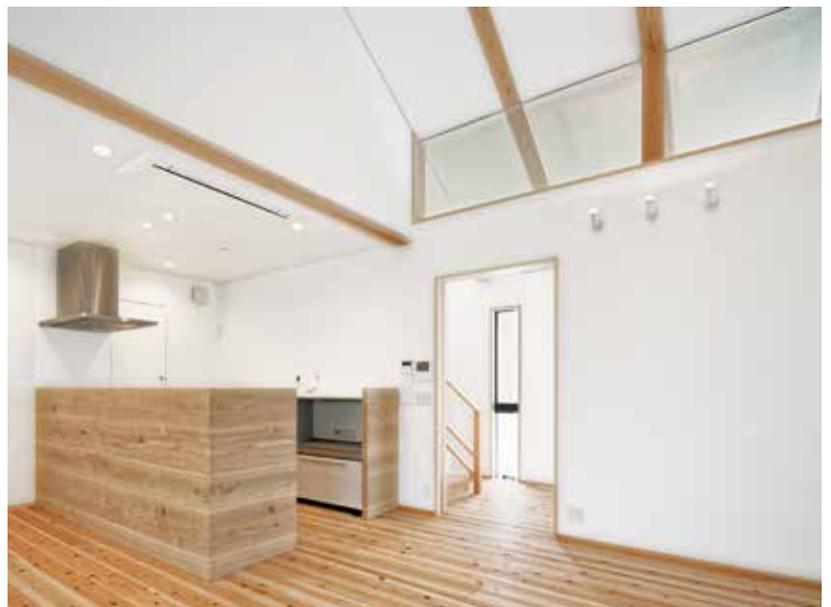


中嶋節子先生



敷地は堺市南区の南端に位置し、周囲は田畑が多いのどかな農村で、クライアントは忙しい日常の中、静かで癒される暮らしを求め、ここに移り住む事を決意されました。この地の静けさを感じられるよう、敷地の南西に広がる田畑を包み込むように、建物を1/4円のリング形状とし、周辺の風景と建物と生活が一体となる事を意識しました。新たな暮らしを、外界から守り、静かなものとする為に、リング外周の外壁を二重にし、蔦の絡まる古レンガ積みとして、時のうつろいを地域と共有する事を意識しました。一方で、内周は家族が生活を楽しむことに徹し、畑や庭園を、室内から庇のついたテラス越しに楽しむ、開放的な構成としています。静けさの中の安らぎが、いつまでも続く事を祈っています。

所在地：堺市南区
用途：専用住宅
竣工：2018.05
構造規模：木造平屋建
敷地面積：637.23㎡
建築面積：142.21㎡
延床面積：118.30㎡
写真：冨田英次



建築場所は大阪で唯一重要伝統的建造物群保存地区に指定されている富田林寺内町の中心に位置する。建物用途はcafe付住宅で新たに土地を購入してまちなみに馴染むよう新築で設計する事を依頼された。土地購入にあたり2方向道路の角地で東側の狭い道路には古い町家が残りその雰囲気が購入のポイントとなった。そこでcafe入口をこの道路側からアプローチし東面が路地的な空間に馴染むようにデザインした。伝建地区での外観規制を守りながら、また角地と道路後退の緩和も使いまちなみの連続性を意識した。cafe内部は古材を使用し懐かしさを感じる落ち着いた空間とし、住宅部分は現在のライフスタイルに合った空間とした。

所在地：大阪府富田林市
 用途：店舗併用住宅
 竣工：2018.04
 構造規模：木造2階建
 敷地面積：186.19㎡
 建築面積：81.98㎡
 延床面積：129.18㎡
 写真：網巻 豊

第11回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

第11回建築人賞の審査委員長は、乾 久美子氏に決定いたしました。

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 乾 久美子



1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996 イェール大学大学院建築学部修了
1996～2000 青木淳建築計画事務所勤務
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞（賞状と記念盾）

建築人賞奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には賞状授与

■ 第11回 対象作品

「建築人」2018年1月号から2018年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（未定）

■ 受賞発表

建築人 2019年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
担当 / 母倉 政美
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2018

会報誌「建築人」では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会「建築人」
Gallery 建築作品掲載係まで。

「こんな高校で学びたかった」、学生たちが周囲に広がる緑豊かな風景を眺めながら歓声を挙げた。二〇一七年十二月十七日、香川県立高松西高等学校の見晴らしの良い屋上テラスでの光景だ。香川県土木部建築課長の山本忠司が設計を手がけ、在任中を締めくくる仕事である。二〇一八年三月に開催する山本忠司展の現地視察のために、県職員有志の手弁当の案内で、二日間にわたり、瀬戸内海歴史民俗資料館や県立体育館、城の眼やイズミ家など、彼の設計した六つの建物を、同僚の教員や学生たちと駆け足で巡った。私自身の高校見学は二度目だったが、学生たちの素直な反応を見て、代表作の瀬戸内海歴史民俗資料館と共に模型制作の候補に選んで良かったと思った。

この建物は、香川県の戦後初の新設校として計画された全日制普通科高校である。敷地は、J R予讃線が高松から約七分の鬼無駅で下車し、西へ約一・二キロ、標高三六四mの勝賀山山麓の高松平野を見下ろす小高い丘に位置する。周囲には神高池や古墳の遺構もあり、恵まれた閑静な環境だ。国道から続く一本道を登っていくと、広いグラウンドの向こうに、山々に抱かれるようにして建つ堂々とした校舎が見えてくる。注目されるのは、敷地の区画形状とは異なり、すべての教室を南面させるように四五度に振られて、校舎群が東西方向に配置されていることだろう。また、職員室や校長室のある本館を中心に置かれ、そこから枝分かれするように、北館、東館、南館が伸びている。一方、各館をつなぐ広い廊下は、本館から南北方向に真っ直ぐに走る。そして、敷地の高低差に合わせて、東側から西側へと校舎の階高を巧みに利用する地盤レベルの設定で、段々畑のように敷地が徐々

に高くなっていく。こうして、単調な配置にも思える校舎群の間には、変化に富む中庭が生み出される。大階段の先には象徴的な体育館が置かれる。また、細かなつくり込みも見逃せない。敷地の段差を支える擁壁には地元産の大ぶりな石が積まれ、中庭には植栽やベンチなども設けられ、校内のあちこちに生徒たちが自然とたたずみ交流できる空間が実現されている。さらに、教室の前に張り出す広めのバルコニーや、その上に架かる重厚な大庇、外壁の煉瓦タイ

記憶の建築 松隈 洋

香川県立高松西高等学校 1977~82年
地域愛と情熱が生んだ学校建築



南東側から見る南館と東館校



北館から見る本館屋上テラス

バラック建てや古い木造の時代から本建築に移ろうとしていた昭和三〇年代、県立のある伝統的な高等学校について、全面改築の計画を立て、設計をどうするかということになったが、そのとき計画を依頼したのが大江宏氏であった。大江先生の基本計画で、実施の図面は先生の指導を受けながら県の建築課でひく、という方法をとって、大江先生には随分とお骨折りにいただいたのであったが、結果としてうまくでき上った。そのとき、この地方の風土の特性を考えた

などが、骨太な外観の表情をつくり出している。内部も、文化施設のような本館の吹抜けのロビーや、校舎群をつなぐ広い廊下とそこに置かれた木製ベンチに至るまで、どこまでも伸びやかに広がる内外の空間が心地よい雰囲気を出している。それにしても、どのような経緯からこの建築は生まれたのだろうか。竣工後、山本が記した次の文章にその謎を解く鍵がある。

「戦後の混乱混迷期が一段落しようとし、

上で、北廊下、南バルコニーのタイプをとっている。その後、香川の学校建築はこのタイプが基範となったのであったが、その後、いくつかの高等学校についても大江氏の基本計画、指導等の下に設計に取り組み、それぞれに個性のある学校を打ち出している。そのようなかかわりが何年か続いた後、香川県としては独自で、もう少し自由で個性のあるものの打ち出しを試みつつ現在に至っている。」(山本忠司「受け皿としての地方、もしくは地域性につい

て」『建築年報(活動編)』一九八〇年)

文中の「伝統的な高等学校」とは、香川県立丸亀高等学校(一九六〇年)のことである。大江宏(一九一三~一九九九年)は、東洋英和女学院小学部(一九五四年)や法政大学の校舎群(一九五五~五八年)を手がけた実績から設計の依頼を受けたのだろう。同時に、そこには、香川県の「風土の特性」に合わせた方法を大江と共に考えようとした山本ら香川県建築課の技師たちの思いも盛り込まれていたのだ。おそらく、このような地道な作業の蓄積があったからこそ、大江の手を離れて、山本らによって、より自由な個性を盛り込んだ学校建築の模索が自覚的に始められていったのだろう。そして、そうした試みが見事に結実したのが、この高松西高等学校だったのだと思う。

山本忠司展の会期中に嬉しい出来事もあった。現役の校長先生が観に来られ、模型を前に制作した学生たちと交流する時間を持つことができたのである。先の山本の文章は、次の言葉で締めくくられている。

「地域文化というものは、できる限り広く求めて、そこにあるものと併せてもう一度グローバルなものに置き換えていく。それはその地域でつくるものであり、地域がつくるものである。そのモメントとなるのはやはり地域愛とそれに伴う情熱のように思われる。」

高松西高等学校には、山本の地域愛と情熱が生み出した空間が今も息づいている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士(工学)。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

匠の巧

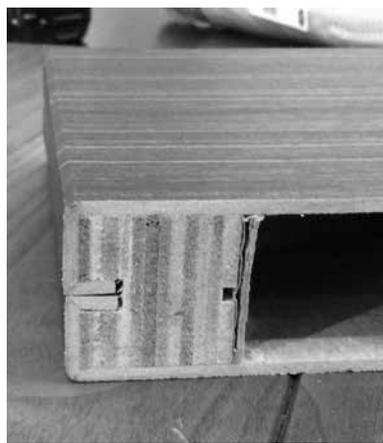
株式会社ウッドワークス

素材と向き合う木製建具

文 丸子勇人・河合哲夫

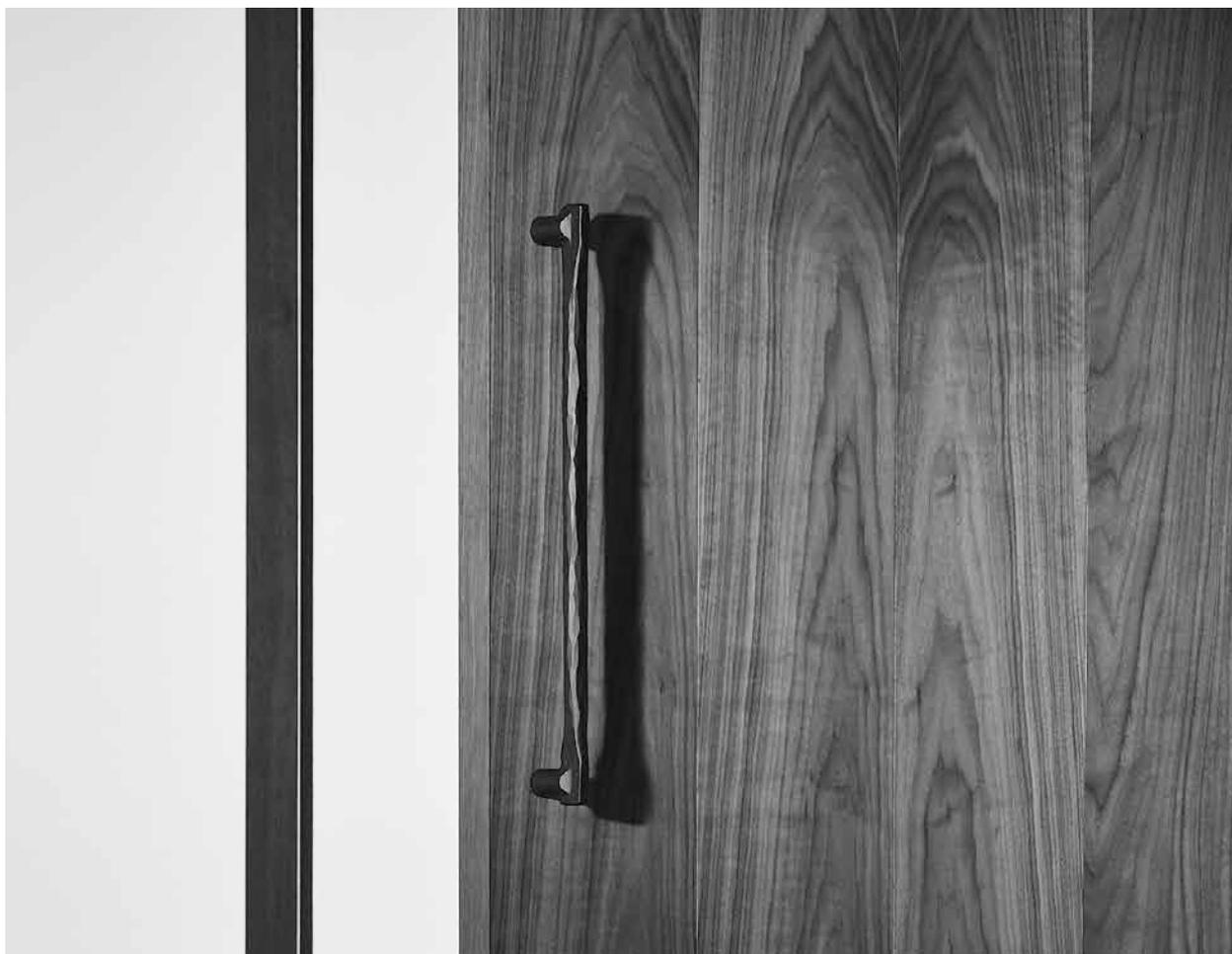
■不満足を形にする開発
みなさん、住宅の内装用木製建具の仕上げにおいて、現在最も普及している仕様を、ご存じだろうか？二〇〜三〇年前まではポリ合板や塗装による仕上げが一般的であったが、現在においては、印刷技術の飛躍的な発達により、ポリオレフィンによる化粧シート張りが主流となっている。二〇一〇年での住宅の年間新築着工数は約八〇〜一〇〇万戸と言われており、それらのほとんどの内部建具においてこうしたいわゆる普及品の木製建具が採用されている。これらは、生活の中で室から室へ移動する際に必ず触れ、また常に生活空間の中に表出するものであるため、日本人の生活のクオリティを大きく左右している重要な部位といえる。

今回取材したウッドワークスは、昭和元年に会社を設立した当時から、そのころは珍しかったフラッシュドアの製作に注力しており、以来、数多くの木製建具の普及品を製作している。門真市にある同社のショールームを代表取締役社長の河井氏に案内頂いた。そこに展示された数々の建具におけるディテールや技術へのこだわりの説明を受け、普及品が世に果たす役割を認識し、決して妥協することのない同社の精神が伺えた。河井氏は常に過去のお客様の不満足に着眼し、それを解決することにより満足度を向上する開発を継続して行ってきたという。「ソファやテーブルなどの置き家具とは違い、木製建具は必要以上に主張すべきではない、いわばインテリアの名バイプレーヤーみたいなものです。今まで物件ごとに様々なドアのデザインを行い、次々と建具に意匠を加えてきましたが、重要なのは小口などのディテールだと考えるようになってきました。」と語る。



開発したオレフィンシート仕上げの小口の納まり

一五年ほど前までのエンドユーザーの不満箇所のほとんどは、建具の小口、目地底、ガラス押縁の仕上げだったと教えていただいた。シート張り建具の小口は表面材と同じシートを張った〇六mmの樹脂性の専用テープを使用するのが一般的であるのだが、その小口テープがハリボテ感を強調し、多くのエンドユーザーが安っぽさを感じていた。そこでウッドワークスでは、この不満を解消すべく、小口の中心部分に切り込みを加え、伸ばしたシートを巻き込む方法を協同開発した。これにより、同一素材のシートが小口まで連続した形で回り込むため、まるで無垢材のような印象を醸しながらも、シートの剥がれを抑え、機能的で意匠性の高い小口を実用化させたのである。目地底の仕上げにおいても、化粧シートを小さな目地の内部にまで確実に張り込む技術を開発。さらにガラスを押し縁で押さえるのではなく、フラッシュのパネルで八mmの合せガラスを挟み込み一体化させる「スルーガラス」のおさまりを普及させることでガラス扉の意匠性を飛躍的に向上させた。これらの開発当初、画期的だったこの納まりは、すぐに他の木製建具メーカー各社も採用し、現在ではこれが主流となっている。



挽き板を用いた木材本来の上質な表情をつくる美しいハイエンドユーザー向けの内装木製建具

■Aria & Aura

ハイエンド層の顧客においては、こうした化粧シートではなく、本物の素材が求められ、そこにおける不満はその仕上げそのものに向かうことになる。建具の多くが木目調のデザインで仕上げが採用されているが、その九割はオレフィンシート張り、残りの一割が突き板張りであるという。取材時においてもそれぞれの仕上げを間近に見せてもらったが、突き板の価格はオレフィンシートの三倍程度にも関わらず、その差はほとんどわからなかった。オレフィンシートは五層にも重なる印刷技術の発達により、樹木の導管まで美しい、より本物に近づいた表情が可能となった。それに対し突き板は、ひずみねじれの少ない安定した品質性能とコスト抑制が追求され、日本では世界標準の厚み(○五㎜)よりも薄い○三㎜が主流となっている。結果として、双方が歩み寄るような開発がそれぞれ進み、その仕上がりが品質性能ともに、その差が曖昧化した奇妙な状況にある。



挽き板に対し、手作業で丁寧に塗装を繰り返す

「Aria & Aura」の協同ブランドを立ち上げた。内装ドアだけでなく、木製サッシガラス、パーティションやキッチン、収納など、各分野に秀でた中小企業が協同し、「本物の素材が持つ唯一無二の価値を伝導する」ために、「素材」の調和、「時」の調和、「インテリア」の調和という三つの「Harmonia(調和)」をコンセプトに掲げている。

■挽き板がつくる「経年美化」

河井氏は、このブランド立ち上げに際し、日本とヨーロッパの街並みの違いにヒントをもらったという。「スクラップ&ビルド」が前提となつてしまっている日本に対し、ヨーロッパでは、中世の街並み、建物はいまだ現役として使われています。そうした文化背景もあり、日本の建材は壁・天井にはビニルクロスが多く、一般住宅の外壁には、タイルや石目のパターンを表面に印刷したサイディングが多い。完成時が一番きれいだが、年々古びていき、一五〜二〇年で交換されることが多い。それに対し、ヨーロッパの建材は、漆喰や石、レンガ、タイルといった天然素材が多く、時が経つことにより美しくなり、次世代へ受け継がれていく。「経年劣化」ではなく、「経年美化」が基本となっているのです。

この思想をもとに、ウッドワークスでは突き板よりもさらに本物の良さを活かす仕上げ材として、厚さ二㎜の「挽き板」を用いた木製ドアの開発に力を注いだ。実は○三㎜の突き板と二㎜の挽き板との厚みの違いは、その仕上げに採用できる塗料に大きな差を生み出してしまふ。より木材そのものの風合いを味わうためにはオイルなどの含浸塗料が適しているが、○三㎜の突き板にオイルなどの含浸塗料を使用すると、突き板を通り越して下地に塗料が含浸してしまうのでウレタン塗装でしか仕上げることができない。それに対し挽き板は、突き板に対し十分な厚さがあることから、突き板ではできなかったエクセレントオイルフィニッシュというオイル含浸仕上げが可能となる。そこでは着色は一切

行わず、何度も塗装とペーパーサンダーを繰り返すことにより、木材が本来もつ自然の色合い、風合いを引き立てつつ、本物の手触りを実現する。経験上、突き板の手触りがシートのように感じていた設計者も少なくないと思うが、それは表面が薄いウレタン樹脂の塗膜によって覆われるため木材本来の手触りとは程遠いものだからなのである。

この挽き板を商品化するには、当然ながら非常に困難な道のりであったという。わずかに二㎜という厚みがあったら木材の強さは○三㎜のそれと比べると尋常ではなく、それを抑えるためには二つの技術が必要不可欠であった。ひとつは、挽き板そのものの動きを安定させること、もう一つは下地のフラッシュパネルの強度を上げること。この二つの質を向上させる努力が、安定した品質供給を可能としたのであった。そもそも「経年美化」のような考えがもつと日本の美学に浸透していれば、ひずみや割れもそれが素材の味という、むしろその魅力の一部として、空間に定着するはずだが、現実には残念ながらそうではない。挽き板のような素材が少しでも広まれば、河井氏の思う「経年美化」を根底とした世の中に近づいていくのではないだろうか。

■流通から考える

ウッドワークスのこだわりは、素材の原産地選びにも及ぶ。地球環境への負荷削減に配慮し、突き板、挽き板に使用する樹木は、どれも北アメリカ産で、ウォールナット、ホワイトオーク、ハードメープル、ブラックチェリーの四種を使用している。「樹木は八〇〜一〇〇年かけて育った樹木しか建材として使用することはできない。二〇〇年かけて育まれた森のいのちは建材としても世代を超えて使って欲しい。」という河井氏の言葉には、長期的に素材と向き合う覚悟が強く表れている。年間伐採量が定められ、一〇〇年かけて森を循環するアメリカの伐採システムは、河井氏の覚悟を受け止めるにふさわしい素材なのである。

また、ウッドワークスでは二〇年くらい前からエコプロジェクトとして、セブ島で計画植林を継続している。建具の芯材には東南アジアの樹木を使用しているが、アメリカのような資源循環の考えが浸透しておらず、いまだなお多くの地域で、環境破壊の進行が進み、人々の暮らしに様々な悪影響を与えている。そこでウッドワークスは、お客様から得た利益の中から、自社の年間消費量に相当する約四〇〇〇本の植林をセブ島で実施し、資源循環に取り組んでいる。

取材を通して、樹木という素材に真摯に向き合い、自然と共存していく確かな姿勢を河井氏から強く感じる事ができた。一度建設されたら長い年月世に存在し続ける建築の本質を捉えた実直な姿勢に強く共感した。不満足を満足に変えるウッドワークスの永年の活動が生み出したオリエティの高い素材感を是非一度味わってみてはいかがでしょう。



代表取締役社長である河井氏



株式会社ウッドワークス 本社
〒577-0062
大阪府東大阪市森河内東1-3817
TEL:06-6783-1842 FAX:06-6783-1844
URL:http://www.woodworks.co.jp/

Aria&Aura -Harmonia Gallery-
〒163-1062
東京都新宿区西新宿3-7-1新宿パークタワー内
リビングデザインセンターOZONE 5F
TEL:03-6911-3151 FAX:03-3347-1727
URL:https://aria-aura.jp/

大阪府下では小中学校向けに建築士による住まい・まちづくりについての出前講座が行われているようです。この活動について大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会会長の橋本頼幸さんにご紹介いただきました。

住まい・まちづくり教育が目指す先

橋本 頼幸

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会会長（2017年度から）
1996年大阪市立大学大学院工学研究科修了、2003年こま設計堂設立、2015年～株式会社に改組、現在代表取締役
2003年大阪市立大学で学位（工学博士）取得後、大学非常勤、岡山理科大学准教授を経て現在京都美術工芸大学特任教授（非常勤）

皆さんは、ふと思いつく建築景色や建築関係者の話と聞いてどんなものがありますか？生まれ育った家の風景や思い出、通っていた小学校やピアノ教室などのインテリア、おじいちゃん・おばあちゃんの家の間取り、思い出そうとすると断片的ではあるものの思い出せるものがたくさんあると思います。子供のときに見聞きした建築現場の工事さんや職人さんたちの印象に残っている話もたくさんあると思います。

私たちの多くは、病院で生まれ、住宅で育ち、学校・職場に行き、最後は葬儀場に行くこととなります。意識するしなにかかわらず、人生のどの場面でも建築がついて回ります。来る日も来る日も建築がすぐそばにある生活をしているにも関わらず、建築について深く考える機会は多くありません。しかもそれを子ども時代に専門的に教えてもらうことは少ないのではないのでしょうか。

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会とは

平成二〇年八月二二日に設立されました。構成団体は、大阪府、（一財）大阪建築防災センター、（一財）大阪住宅センター、（公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（公社）日本建築家協会近畿支部、（一社）日本建築協会の七団体です。常任委員は、大阪府から住宅まちづくり部の建築防災課・公共建築室計画課・都市居住課から計一〇名程度、各団体から三名程度で合計三〇名程度です。常任委員とは別に、出前授業などの際にご協力頂くサポーター委員が各団体・大学等から三二名（平成三〇年三月末現在）おられます。

協議会前身からの活動

平成一五年度と平成一六年度は大阪府職員を中心とした出前講座のモデル実施からはじまり、平成一七年度から平成一九年度は、大阪府から大阪府建築士事務所協会への委託で運営されていきました。一五年度は、バリアフリーを高槻市の小中学校の二校、まちあるき・キットハウスを八尾市の小学校の計三校で始まり、一八年度は二校（バリアフリーと快適な住まい）、一九年度は四校（同）でした。

平成二〇年に普及協議会が設立され自主運営になってからは、ユメイエの教材作成（平成二〇年度）、二〇年から二四年までが毎年四〜五校、二五年と二六年が八校、二六年にテキスト教材「住まい・まちづくりを考えよう（三二ページ）」を（公財）建築技術教育普及センターの普及事業助成で作成してから、二七年が一四校、二八年が一七校、二九年が二一校と飛躍的に伸びてきました。

テキスト教材・ロゴ（愛称）・マニュアルづくり

協議会は、前身のモデル実施から一五年にわたる活動ですが常に手探りで行っています。授業の内容も毎回と言っていいほどブラッシュアップしてよりよいわかりやすい授業内容になるように追求しています。協議会では前述の通り、「ユメイエ」と「住まい・まちづくりを考えよう」の二つの冊子を作成しています。特に「住まい・まちづくりを考えよう」は協議会のホームページ（<http://www.oafor.jp/demae/>）で全編ダウンロードが可能です。このテキストは、小中学校の先生方の手引きになるように、見開き一ページ（A4サイズ二ページ）を一時限

の授業で使えるような構成になっています。地震の話（一単元）、いえのはなし（四単元）、まちの魅力のはなし（二単元）、「くらす」にほしい場所のはなし（四単元）、バリアフリーの話（二単元）と合計一四単元の授業ができるようになっていきます。

一方、協議会の名称が「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」と非常に長い名前と活動のポイントとなるようなロゴがなかったため、ロゴと愛称も平成二九年に作り直しました。愛称は「大阪府すまいまちまなぶプロジェクト」、ロゴは図1の通りです。

授業も手探りで常にブラッシュアップしているとはいえ、担当者によって内容にバラツキが生じないように、昨年度から各授業でマニュアル作りに取りかかっており、初めての人でも授業ができるように工夫を重ねています。

提供している授業

小中学校への出前授業は、以下のような流れで行われます。五月初旬に大阪府下の全公立小中学校に案内と申込書を配付し、受付をはじめます。申し込まれた後、常任委員が出席し月一回行われる全体会議において内容を確認し、実施決定された学校に対して、事前の打ち合わせを行います。学校に向き学校の要請に応えられるか、設備や体制が整っているかを確認した後、出前講座の実施となります。ちなみに、出前講座は全て無料で行われており、現在まで小中学校の費用負担はありません。

提供されている授業は、「防災」「建築とバリアフリー」「ユメイエ」「快適な住まい」の四講義と先生向けの講義を



写真7・8 「ユメイエ。」ユメイエ完成模型



写真5・6 「ユメイエ。」ユメイエ製作風景
スタッフも懸命に子供たちの描いた形が作れるようサポート



写真3 「防災」講義



写真1 「快適な住まい」講義



写真9 先生に向けた講義



写真4 「ユメイエ。」班ごとに分かれてユメイエ
ルールについて議論



写真2 「建築とバリアフリー」車いす体験・実習

行っています。

防災…(一財) 大阪建築防災センターの発行する冊子を元に、災害について勉強を行い、地震などの災害に強い家やまちづくりについて学びます。

建築とバリアフリー…バリアフリー建築とはどのような点を工夫しているか、建築士の立場からどのように設計しているのか等を学びます。また、車いす体験やバリアフリー製品を体験することにより高齢者、障がい者などについての理解を深めてもらいます。

ユメイエ…建物や建物とまちとの関係、気候・風土に合った住まいについて考え、自分の描くユメイエを子供たちに描いてもらいます。グループになって、各まちのルールを決めて、自分の描くユメイエやまちを画用紙などで作成します。

快適な住まい…明るさ、風通しなど、快適な住まいの必要な要素について学びます。快適な住まいを作る上で工夫されている点はなにかを建築士の立場から紹介します。

教員向け講座…これらの授業のポイントや何を伝えているかと言ったことを、教員向けにダイジェスト版でお話しし、各学校で教員ができるような工夫をお伝えします。

そして各授業の初めには、必ず建築士とはどんな資格か、建築家とは何をしている人か、それらがボランティアでどうして子供たちに授業をするのか、といったことを話すようにしています。

出前授業では実際に我々が授業をしますが、次の段階で教員が担当していただけるような授業にしていけることを目指しています。一方で、各授業の最後に小中学校の先生達から「自分達も知らなかった」

というような感想が聞けることもあり
ます。

協議会が目指す先

小中学校で私達が授業を担当することによって、子どもたちが建築士を目指すきっかけになればそれは嬉しいことです。しかし、すべての子供達に将来の建築技術者になってほしいと考えているわけではありません。

建築はみんなが使うものです。建築の使い手として知ってもらいたいこと、そして将来建築発注者になったときに知っておくことなどを伝えることができれば、この事業のほとんどの目的は達成すると考えています。建築はこんなことを考えて作られているのだということをおよと知ってもらおう、知るきっかけを提供することが私達建築のプロフェッショナルが、子どもたちにできることだと思っています。

すべての建築が、昔から様々な工夫を積み重ね、多くの人の知恵を集約して構成されているものであることを知れば、建築が楽しくなり、建築を使いこなすことにつながっていきます。そうなること、自ずと建築に対して愛着を持つようになり、建築を大切にしようと思えます。すると、そういった建築によって構成される「まち」や「まちなみ」についても興味がいくようになり、まちづくりにも建築同様に知恵やアイデアが詰まっています。気づけば、建物やまちづくりにも、そしてそこにいる人やものにも愛着を持つようになり、大切に作る気持ちが広がっていきます。周りの人やものを大切にすることは、自分を大切にすることにつながります。

「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」と「教育」を銘打っていますが、そんな難しいことをやっているつもりはありません。自分たちが仕事を通じて感じたことや思っていることを子どもたちや小中学校の先生たちと一緒に考える、一緒に勉強することを心がけています。私達は義務教育課程の専門教育を受けたわけではありませんから、小中学校の先生のように上手に授業をすることはできません。また、それを求められているわけではありません。私達ができているのは、子どもたちと「共有」することだと思っています。この「共有」するということ、がまさにプロフェッショナルに求められていることだと考えます。

私達の小学校や中学校での子どもたちとの出会いが、その子どもたちの建築の原風景になってくれたら、そしてそのような子どもたちが少しずつ増えていくことで、社会が良くなると信じています。

「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」と「教育」を銘打っていますが、そんな難しいことをやっているつもりはありません。自分たちが仕事を通じて感じたことや思っていることを子どもたちや小中学校の先生たちと一緒に考える、一緒に勉強することを心がけています。私達は義務教育課程の専門教育を受けたわけではありませんから、小中学校の先生のように上手に授業をすることはできません。また、それを求められているわけではありません。私達ができているのは、子どもたちと「共有」することだと思っています。この「共有」するということ、がまさにプロフェッショナルに求められていることだと考えます。

私達の小学校や中学校での子どもたちとの出会いが、その子どもたちの建築の原風景になってくれたら、そしてそのような子どもたちが少しずつ増えていくことで、社会が良くなると信じています。



写真11 住まい・まちづくりを考えよう



写真10 ユメイエ。

第10回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人 大阪府建築士会



審査委員長 古谷誠章

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とNASCA共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授

審査総評

建築人賞審査委員長 古谷誠章

五年目の今年もバラエティに富んで見応えがありました。近畿圏外も含め三日間の実地審査となりましたが、いつもながら限られた数しか拝見できないのが、とても心苦しいです。

作品を通じて皆さんのエンターテインメント精神、施主やユーザーに対するものもありますが、皆さん自身が建築づくりを楽しむ精神を強く感じます。「大阪の建築人」気質でしょうかね。それで大抵が食べたり飲んだりが好きという、老若問わず生き生きとした生命力があふれています。その意味では、僕自身にも共通したものがあつたのかも知れません。仲間に入れていただきありがとうございます。

今年的一般部門で群を抜いたのが《大光電機(株)技術研究所》で、照明器具メーカーが照明に凝るのは当然としても、このエンターテインメントは自然光、人工光、演出光などが協奏するまさにエンターテインメント空間で、理屈抜きで圧倒されました。これだけやってまったく嫌味にならないのが流石です。関西の建築を表すもう一つのキーワードが「旨さ」だと思いますが、階段や手すりの一つを取っても徹底されています。住宅部門では、毎年入選した大江さんの《Frame》が圧巻でした。五年間で五軒の住宅を訪れましたが、どの一つを取ってもそ



建築人賞記念盾「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

れぞれに個性があつて、似たものがない印象です。本当になんでも出来る建築家、作品ごとに違った方法でクライアアントを喜ばせる、究極のエンターテインナーぶりと言えます。今回は過去のいずれにもない「旨さ」が出ていたのですが、一言でいえば、「大人が遊んでいる旨さ」です。大人がちゃんと遊ぶとこうなる、という感じのものです。

今年でいよいよ最後の年となりました。お陰さまで、年々多くの充実した作品の応募をいただくようになり、お引き受けした身として嬉しい限りです。各回の審査のお手伝いをいただいた皆さん、本当にありがとうございます。数々のわがままに快くお付き合いいただき、心からお礼申しあげます。

この賞の特徴の一つに、ゼネコンや組織事務所などの大手と、アトリエ派の設計者、また大ベテランから、活躍中の新人まで、まさにバラエティに富んだ作者に出会えることがあります。一堂に介しての一次審査では、その皆さんが、それぞれに個性的な発表をしていただけのも、大きな楽しみでした。一人審査は大変な苦行でしたが、入選者も落選者も一緒に和やかな懇親会を開いていただけたいことも、とても大きな意味があると思います。審査員との対話もすることながら、何よりも応募された方々同士が交流していただけるのが、将来につながる大きな出会いとなると思うからです。

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇一八年四月には第六四六号を数えました。本会会員である建築士にとって重要な情報提供を行うとともに、作品発表の機会を設け、建築技術の普及や建築士の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は、「建築人」のGALLERY頁に掲載された作品の中から機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰し、建築技術の進展、建築文化の向上に資するとともに、「建築人」のプレゼンスをさらに高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は、公平性を重視するため、関西以外で活躍する建築関係者、学識経験者等をお願いしています。第六回からは早稲田大学教授古谷誠章氏を審査委員長としてお迎えしました。

今回は、二〇一七年に掲載された作品三六点が対象となりましたが、今回も例年同様、公開一次審査を行いました。一次審査は、二月三日に開催され、計三二点の作品について設計者のプレゼンテーション、審査員による質疑等を行い、その場で八点が審査を通過しました。その後三月二七日、二十九日、三〇日の三日間、現地審査を行い、最終的に、建築人賞二点、建築人賞奨励賞二点、佳作四点が選出されました。

入賞作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。

建築情報部門長 飯田英二



建築人2017年12月号掲載



建築主／大光電機(株)
 設計／大林組
 施工／大林組
 建築位置／大阪府東大阪市
 竣工年月／2017年4月
 用途／研究施設
 構造・規模／RC・S混構造
 敷地面積／4,983.46㎡
 建築面積／2,302.77㎡
 延床面積／3,849.95㎡
 写真／稲住写真工房

【選評】
 企業の技術研究所というものが、公開できない企業秘密もあるでしょうし、どちらかといえば閉鎖的になるのは避けられないとしても、それではそこで研究活動を行うスタッフにとっての快適性や働き甲斐、さらにラビリティはどのようにして高められるのか、現代の研究所の大きな命題です。ここでは、目の前にある高架道路の影響を遮断するという必要性が、逆に閉ざされた建築内部に、いわば別天地を作り上げるというアイデアに帰着しています。加えて、時々刻々変化する壮観な光のペーजेントを体感できるエントランスホールが、そのインシエーションになっているところがこの建築を非凡なものにしました。



建築人2017年9月号掲載



設計／マニエラ建築設計事務所
 施工／三幸建設

建築位置／兵庫県西宮市
 竣工年月／2016年7月
 用途／専用住宅
 構造・規模／鉄骨造3階建
 敷地面積／213.37㎡
 建築面積／70.29㎡
 延床面積／130.68㎡
 写真／喜多章

【選評】
 この家は一言で言えば「大人の遊び場。クライアントと設計者の双方にとっての遊び場です。その遊び方が半端でなく、鉄骨コラムにH型鋼のスチールの骨格に箱をかぶせたような割り切ったコンセプトで、あたかも工場に住んで、あんな感じですが、しかし仕上げにかかる細部には異様に神経の注がれたディテールが施されており、その目でもう一度鉄骨をみると、一見ぞんざいなようで、そこにも細部に相当気を使った形跡が見取れます。マニアックすぎますが、僕は鉄骨のスカラップの穴越しに外光が漏れて入ってくるのには心底脱帽させられました。本当に見事な気合いの入った遊び方です。この家のもう一つの見せ場が、壁を切り取って梁を剥き出しで見せた三階への階段上の天井部分ですが、とても言葉では言い表せず、これは行かなければわかりません。

建築人賞奨励賞 姫嶋神社 参集殿



【選評】
多くのベテランや組織の強豪に伍して、若手のアトリエの設計者が挑んだ意欲作です。伊勢神宮につながる由緒のある神社の参集殿は境内の一面を囲い取る形で計画されていますが、その白い外壁に閉ざされた外観からは想像できないほどに、一旦内部に入ると伸びやかで開放的な空間が溢れています。妻面のガラス開口越しには本殿や鎮守の楠などを望み、自分が今確かに境内の中にいることを感じさせます。小屋組の木架構や、広間を仕切る大障子の棧などに節度がありながらも大胆なデザインが施され、内部空間全体を独特のものにしています。これを臆せず提案した作者の熱意もさることながら、受け容れたクライアントの度量の深さに感服しました。

設計／橋口建築研究所
施工／Arcco

建築位置／大阪市西淀川区
竣工年月／2017年2月
用途／神社・参集殿
構造・規模／木造平屋建て
敷地面積／3,398.98㎡
建築面積／620.54㎡
延床面積／223.79㎡
写真／浅川 敏

建築人賞奨励賞 飾磨の家



【選評】
この敷地は一見すると小さいながらも角地にあり、採光や通風上で有利に見えますが、実際には対面する隣家が迫り、敷地の角度も含めて制約の多い厳しい敷地です。それに対してこの家は、敷地の角に家型の屋根を効果的に使って近隣の住宅との調和を生み出しながら、大胆な四角い壁を、材質を木とすることで柔らかさを与えつつ組み合わせることで独特のハイブリッド感を生み出しています。圧巻なのは内部で、一步踏み入れると、そこには吹き抜けを介して様々な空間が有機的に組み立てられた広がりを感じられます。部屋のつながりや、天井、家具のあしらいなどに熟練したデザインが施されていて、狭さを感じさせず、伸びやかな広がりが生まれています。

設計・監理／大西憲司設計工房
施工／笹原建設

構造監理／天野一級建築構造
設計事務所
建築位置／兵庫県姫路市
竣工年月／2016年10月
用途／専用住宅
構造・規模／木造（在来工法）
地上2階
敷地面積／94.64㎡
建築面積／60.79㎡
延床面積／112.37㎡
写真／福澤昭嘉

実施要項及び経過

●対象作品

会誌誌建築人二〇一七年一月号／二〇一七年二月号
「GALLERY」掲載作品三六六

●審査

第一次 公開審査（三六六から八二選出）
第二次 現地審査

●表彰式

平成三〇年度定時総会・式典 席上
日時／平成三〇年五月二三日（水）
会場／KKRホテル大阪三階

●入賞作品

建築人賞

大光電機株式会社 技術研究所

二〇一七年二月号掲載

Frame

二〇一七年九月号掲載

建築人賞奨励賞

姫嶋神社 参集殿

二〇一七年二月号掲載

飾磨の家

二〇一七年三月号掲載

建築人賞佳作

甲南高等学校・中学校スポーツ屋内練習場

二〇一七年四月号掲載

日亜化学工業 諏訪技術センター

二〇一七年十月号掲載

富田林の家

二〇一七年四月号掲載

富田林しないまち・木くま館

二〇一七年六月号掲載

建築人賞

設計者に賞状および記念盾を授与、
建築主・施工者に賞状を贈呈

建築人賞奨励賞 建築主・設計者に賞状を贈呈
建築人賞佳作 建築主・設計者に賞状を贈呈

建築人賞佳作

甲南高等学校中学校スポーツ屋内練習場



【選評】この練習場は、なんとと言ってもそのデザインの切れ味の良さが際立っています。厳選された限られた素材だけを使って、その箇所に応じた巧みな使い分けをもって、メリハリの効いたコントラストを感じさせる極めて鮮やかな腕前を見せられました。二棟が並行配置されたことにより、一見単純な上屋のほずですが、光の明暗、透過と不透過、水平と屋根勾配の傾きなどが、微妙に重合、対比されて複雑な空間のコンビネーションが生み出されています。極端にいえば、普通なら何にもできないさそうに見えるスポーツ練習場が、涼やかな緑の中で、実に快適で居心地の良い光と風のアンサンブルに昇華されていました。

建築主／(学)甲南学園
設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／兵庫県芦屋市
竣工年月／2016年10月
用途／学校(中学校・高等学校)
構造・規模／S造・地上2階
敷地面積／32,270.48㎡
建築面積／773.99㎡
延床面積／1,285.30㎡
写真／堀内広治

建築人賞佳作

日亜化学工業 諏訪技術センター



【選評】初めて近畿圏を出て、長野県諏訪地方に出かけての現地審査を行いました。諏訪湖を見下ろす絶好の敷地に建つ技術研究所ですが、大光電機とは対照的に前面の道路からも一段高台に位置し、周辺の環境にはとても恵まれています。設計はそのロケーションを最大限に活かしたもので、キャンティレバードが大きく張り出した最上階からは、諏訪湖だけでなく周囲の景観も全方位に向けて見晴らすよう、工夫されています。敷地の元々の斜面を断絶せずに、大きなスパンを飛ばして建物全体を浮かせているのも納得がきました。それにしても素晴らしい研究環境をつくることで優秀な人材を募る依頼主の姿勢にも改めて感服しました。

建築主／日亜化学工業
設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／長野県諏訪郡
竣工年月／2016年11月
用途／研究所
構造・規模／S造・RC造
地下1階・地上2階
敷地面積／13,384.96㎡
建築面積／2,625.44㎡
延床面積／4,002.86㎡
写真／母倉知樹

建築人賞佳作

富田林の家



【選評】この家は緩やかに傾斜する角地に建ち、カーブする石垣と生垣がとても見応えがあります。建築の外形は大変シンプルなのですが、大きな庭石など敷地に残るこうした外構や、年季を感じさせる家具調度類が見事に活かされていて、内外ともに新旧の要素が渾然一体となった素晴らしい協奏曲が奏でられています。内部が個室のボックスにより分節化されているのですが、そのボックス間に残された隙間の空間の方に特徴があり、ぴたり収められた既存の家具やピアノなどが存在感を發揮しています。これらの古くからの「住人」たちが主役となって暮らす家という趣です。架構は豪快ながら、全体にデザインに抑制が効いていてとても居心地の良い家でした。

設計／井上久実設計室
施工／西友建設

建築位置／大阪府富田林市
竣工年月／2017年2月
用途／専用住宅
構造・規模／木造
敷地面積／292.25㎡
建築面積／117.97㎡
延床面積／101.39㎡
写真／富田英次

建築人賞佳作

富田林じないまち・木くま館



【選評】この作品は機能的には一般部門とは言えますが、元々は伝統的な寺内町地区の古民家の改修であり、その意味では住宅部門的な作品でもありません。同じ設計者による今井町の民家改修でも試みられた木格子による耐震補強法が、さらにバージョンアップされて、ショールーム空間という、より開放的なプランが必要なの施設の中で、その性能がいかに役立っているようでした。地場産材のPRにも大いに貢献しているようでした。この作品そのものの価値のさることながら、設計者自らがこの町に暮らし、事務所を構えて、自らが地域をこよなく愛して設計を続けるその姿勢に感服しました。伝統的建築物群を今日に保存するという、生半可なことでは推し進められない成果を支える素晴らしい活動です。

設計／横関正人+横関万貴子/
NEO GEO
施工／アール・ワン

建築位置／大阪府富田林市
竣工年月／2012年3月
用途／店舗・事務所
構造／京大大学生存圏研究所
構造・規模／木造2階建
敷地面積／188.21㎡
建築面積／139.97㎡
延床面積／233.81㎡
写真／絹巻 豊

建築士賠償責任 補償制度 (けんばい)

平成26年改定

新たな2つの補償

補償内容の拡大の声に答えて誕生した、新しい「けんばい」

これまでの「けんばい」では、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」のない場合には、原則として補償されませんでした。例えば、構造計算ミスにより建築物が建築基準法に達していなかった場合に、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」が発生していなければ保険の対象外でした。

平成26年4月より、「法令基準未達補償」および「構造基準未達補償」の2つの補償を追加し、「滅失・破損」が発生しない場合でも一定の基準を満たさなかったために生じる損害に対応できるように改定することに致しました。

改定のイメージ

起 因 設 計 ・ 監 理 業 務 に 関 連 す る 賠 償 責 任	滅失・破損 あり		↑ 従来の けんばい ↓	↑ 本年度の 標準セットプラン ↓
	滅失・破損 なし	建築設備が著しく機能を発揮できない場合の補償 (給排水設備、電気設備、空調設備、住宅の遮音性能)		
		法令基準未達補償 New ※補償対象外とすることも可能です。	構造基準未達補償 New	

新たに追加された2つの補償

●法令基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「所定の建築基準関連法令における基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

●構造基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「建築基準法第20条1、2、3号建築物の構造基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

※建築士賠償責任補償制度 (けんばい) の改定についてご紹介したものです。保険の内容は建築士賠償責任補償制度のパンフレットをご覧ください。

設計・監理リスクに備えた
建築士会会員のための補償制度

ユーザー対象の設計相談
住宅の設計者問い合わせ
に対応する

登録者募集

(公社)大阪府建築士会 社会貢献委員会 分科会 “住宅を設計する仲間達”

登録者の個人ページ・・・専用のホームページ内に作成可
建築士リスト・・・数カ所の機関に配架し、広報活動を展開
設計相談・設計例展示・・・大阪市立住まい情報センター等

専用ホームページ www.jutaku-nakama.com/
登録・問合せは (公社)大阪府建築士会 立間まで
06-6947-1961 tatsuma@aba-osakafu.or.jp

住宅を設計する仲間達 建築士 リスト 2016-17

家づくりの

『住宅
大阪府
が得意な建
あなたにピッ
お問い合わせく

- 公法社団法人 大阪府建築士会
JUTAKU NAKAMA
- 住宅を設計する仲間達とは
 - 建築士に任せるメリット
 - 具体的な流れ
 - まんが～家作りストーリー～
 - 土地の選び方
 - 住宅ローンについて
 - 建築士を探す

建築士に任せるメリットは何?

ホームページの
抜粋版です

お知らせ

- パネル展示&セミナー@住まい
セミナー 3月5日
- 「建築家とつくる」
- パネル展示
- 「建築家とつくる」
- パネル展示&セミ

家づくりは、頼
「住宅を設計する仲間達」は、住宅を設計するプロ（建築士、建築設計事務所）の集まりです。3,000人が在籍する公益社団法人大阪府建築士会は、住宅一部の社団法人大阪府建築士会と連携し、平成8年に「住宅

に対して、たくさんの思いをお持ちの方こそ 歓迎します。品質の向上と意図的に「住宅設計のプロセス」をいっしょに楽しみましょう。

自然と住まいがやさしく調和することを心がけています。風や光に季節を感じ、家族の一人ひとりにとって心地よく癒される住まいを“粋でおしゃれに”デザインさせていただきます。吟味した杉で体がよるこぶ空気をつくり、子どもから大人まで 脳を元気に健康で安全で安心して暮らせる家を丁寧につくらせて頂きます。

暑中見舞 2018

大阪府建築士会役員

見える社会貢献活動へ

宮崎 八郎

宮崎建築設計事務所
大阪市中央区西心斎橋1-1-11
(心斎橋西ビル8F)

柳川 陽文

株式会社 小河建築設計事務所
大阪市中央区瓦町3-3-7
(瓦町KTビル6F)

岡本 森廣

全日本コンサルタント株式会社
大阪市浪速区港町1-4-38

澤本 侃一郎

株式会社 K&S総合企画
大阪市西区京町堀2-2-1
(スマタビル10F)

上田 茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房
大阪市北区中津1-12-3

田中 義久

株式会社 田中都市建築事務所
(TANATOSHI DESIGN NET)
TANATOSHI Osaka 大阪市中央区本町橋5-14
(OZビル本町橋902)
TANATOSHI Tokyo 東京都大田区上池台1-7-16-218

濱田 徹

株式会社 イリア
大阪市中央区城見2-2-22
(マルイトOBPビル9F)

飯田 英二

株式会社 IMOデザイン
宝塚市武庫川町4-3-711

徳岡 浩二

株式会社 徳岡設計
TOKUOKA SEKKEI MYANMAR Co., LTD (YANGON)
大阪市北区西天満6-3-11-205
大阪・東京・兵庫・滋賀・九州

人にやさしく

沼田 亘

株式会社 昭和設計
大阪市北区豊崎4-12-10

森田 茂夫

アトリエ クレオ

山城 健児

コーナン建設株式会社
大阪市北区大淀南1-9-10

暑中お見舞い申し上げます。

横田 友行

株式会社 能勢建築構造研究所
大阪市中央区瓦町3-3-7
(瓦町KTビル)

暑中見舞 2018

建築設計事務所

暑中おみまい申し上げます

人、社会、地球環境との共生

夢ある未来の創造

宇澤善一郎

ア ト リ エ ・ U
和泉市池田下町1699

金峰鐘大

株式会社 I A O 竹田設計
大阪市西区西本町1-4-1

湯浅武夫

株式会社 阿波設計事務所
大阪市浪速区元町2-2-12

西村清是

株式会社 浦辺設計
大阪市中央区北浜2-1-26
(北浜松岡ビル4F)

亀井忠夫

株式会社 日 建 設 計
大阪市中央区高麗橋4-6-2

佐野吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
大阪市中央区島町2-4-7

建設会社

竹中工務店

取締役社長 宮下正裕

大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13
TEL06(6252)1201
東京本店 東京都江東区新砂1-1-1
TEL03(6810)5000

大成建設

TAISEI
For a Lively World

専務執行役員関西支店長 金井隆夫
関西支店：大阪市中央区南船場1-14-10 電話06(6265)4504
本社：東京都新宿区西新宿1-25-1 電話03(3348)1111

ナイスジョイント

ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手

ISO9001
ISO14001
認証取得

オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村政弘

■本社・工場 〒708-0011 岡山県津山市上田邑3235-2
TEL (0868) 28-0171(代) FAX (0868) 28-4254

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法
NAKS, RODEX工法



日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目6番14号(NC芝浦ビル)
基礎事業部 ☎(03)3452-1081 FAX(03)3452-1125
大阪支店 〒542-0081 大阪府中央区南船場4-1-1-28
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986

一般社団法人 大阪電業協会

会長 前田 幸一

〒530-0055
大阪市北区野崎町9番8号 永楽ニッセイビル
TEL(06)6363-4077 FAX(06)6363-4079

「サービス提供」から「価値共創」へ



一般財団法人

日本建築総合試験所

理事長 井上 一朗

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
<http://www.gbrc.or.jp>

住まいに、人に、安心を。

住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業
住宅展示場の企画・運営
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関



一般財団法人大阪住宅センター

大阪市中央区南船場四丁目4番3号 心斎橋東急ビル4階
電話番号 06-6253-0071

一般社団法人 日本建築材料協会

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4F
TEL 06-6443-0345 FAX 06-6443-0348
支部 関東・中部・中国・四国・九州
<http://www.kenzai.or.jp>

一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

会長 古新 亮英

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 新トヤマビル3階
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

学校法人 福田学園

OCT 大阪工業技術専門学校

OHSU 大阪保健医療大学

OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL <http://www.fukuda.ac.jp>



FUKUDA GAKUEN

建材・設備会社 他

DESIGNER'S NETWORK

株式会社 ディーネット

代表取締役 宗次 健太

〒660-0828 尼崎市東大物町2-1-21 TEL.(06)6483-6308

オリジナル紙製グッズ

変形うちわ・丸うちわ
かわいい形のはがきなど

広告、イベント情報などを載せると、
宣伝効果もバツグン!

ネットショップも好評営業中

中和印刷 検索

URL <http://www.chuwa-print.com/>

CHUWA
中和
since 1936

中和印刷紙器株式会社

〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53番地

TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188



カメラ+タッチパネル付きディスプレイを
搭載した新型ダムウエーター

総合エレベーターメーカー

クマリフト

小荷物専用昇降機 / ダムウエーター
人荷用・荷物用エレベーター
いす式階段昇降機 / 自由生活

本社：大阪市西区京町堀 1-12-20
TEL：0120-07-0570
HP：www.kumalift.co.jp



マンション・ビルの大規模修繕工事
高分子株式会社



www.kondunsni.co.jp

代表取締役 山口 朗

〒599-8271 大阪府堺市中区深井北町3418-1 TEL：072-278-4157(代表)

理事会報告

文責 本会事務局

日時 六月二十七日(水) 十六時〜十八時
場所 本会会議室

出席 理事三名 監事二名

(1) 五月の当期経常増減額は、収入六、五
六七、三八九円、支出一〇、二二二、六六二
円、差引△三、六四五、二七三円で、本年度
累計の収支差引三九、四一三、七五一円を報
告して承認されました。

(2) 大阪北部地震発生に伴う本会の対応

① 応急危険度判定活動

6/18 枚方市との避難所の応急危険度判定
活動の協定に基づき四ヶ所の判定を実施。
大阪急性期・総合医療センターとの協定に
基づき医療センターの設備技術者とともに
判定を実施。大阪府の要請で、大阪府中央
卸売市場を府職員に同行して判定を実施。

6/19 大阪府の派遣要請に基づき、本会は
茨木市担当で、六/二〇〜二八日の間で
六九名を派遣。島本町の庁舎の判定要請が
あり、判定士二名を派遣。

② 建築相談

6/19 NHKの取材。大阪府及び一部市町
村からブロック塀に関する相談窓口に指
定。大阪の住まい活性化フォーラムからの
要請で市町村別の市民相談会(高槻、茨木、
大阪、摂津、豊中の各市)へ相談員を派遣。

6/21 本会の電話相談員を二人体制。

6/25 建築相談専用の電話回線を増設。

6/26 毎日新聞社の取材。

③ 大阪住まい・まちづくり教育普及協議会
を構成する建築四団体(本会、事協、JIA、
協会)で、小学校及びその周辺の安全
チェックを行うためのボランティアを緊急
に募集することとしました。

建築相談室から二十七

現地相談 その一

文 橋本頼幸

すでにご承知の方も多いかとは思いますが、
本会の建築相談室では、相談者からの求めに応
じ半日三三、〇〇〇円の負担をお願いして、原
則相談員が複数名で現地にお伺いし、現地での
相談を行っています。年間に平均して四〇件程
度ありますので、月に二〜三件の現地相談を
行っていることになりました。現地相談は現地
にお伺いして「問題ないですよ」となることがほ
んどです。大きな問題を内在していることはあ
まり多くありません。とはいえ、いろいろあるの
が相談業務。今回から三回に渡って現地相談を
ご紹介いたします。

弁護士からの依頼

大阪府建築士会では、大阪弁護士会と昨年
平成二九年に協定を締結しております。そんな
こともあり、弁護士から相談をいただくことが
あります。弁護士からの相談はなぜか請負金
額の請求で訴えられた側が多いです。相談内
容は金額相当か、工事内容に問題はないか、な
どの見解を求められます。大抵このような場合
は、代金を支払ってないほうの分が悪く、不当に
高いとは思わないが見積内容を査定しても大
きな差額が生じていることは少ないです。
床鳴り・亀裂・仕上がり不満

この種類の現地相談は結構多くあります。
自分の味方になってくれる専門家が周りにいな
い場合は相談者としても不安が募り、藁をも
すがる思いで本会に相談するケースと見られま
す。ただ、実際に現地に行ってみるとそれほど問
題ではなく、補修もそれほど大掛かりでなく
もできることが多いようです。それで納得して
もらえる方がほとんどです。しかし、その場では

納得したように見えても、不安が再発すること
もあります。そういった方が別の問題を起こす
こともあるのですが、それはまた改めて。

悪質訪問リフォーム詐欺

築四〇年、木造二階建て、高齢女性の一人
暮らしの建物に、四ヶ月の間に「床下補強工事」
「地盤改良(薬液注入)」「小屋裏のアラミド織
維補強」「電気配線取替工事」などを次々に必
要だと言われ、最後の契約をしたところで、甥っ
子さんが気づきクリーニングオフをして、本会に相
談がありました。合計で八〇〇万円程度の被
害のうち、最後の二二〇万円はなんとか止めら
れたようです。ただし、クリーニングオフにしたとき
に、契約書の関係資料はすべて業者に持って帰
られたようでした。相談依頼内容は、リフォーム
工事の必要性、契約工事の実施状況、金額の妥
当性を調査してほしいとのことでした。

典型的な次々リフォーム被害

工事や手口はいわゆる悪質リフォーム被害で
した。工事内容はしてもしなくてもいいような
工事ばかりで、実施した工事(アラミド繊維補
強)もまったく無意味な工事といえます。一人暮
らしの高齢女性宅に若い男性営業マンが上がり
込んで世間話などをしながら信頼関係を作り
契約を貰う方法や書類の作り方、見積の仕方
など手口が巧妙でなれた業者であることが伺
えます。クリーニングオフで止めた「電気配線取
替工事」も営業マンから「ブレーカーや天井内の
配線が熱くなっているので、危険である。改修が
必要である。」と言われたようで、現地相談でも
かなり気にしていました。ハンデいのサーモカメラ
で温度を測り写真撮影をして実際に問題ない
ことを、依頼者と見てもらって納得してもら
いました。この相談者はその後弁護士さんに取
り次いで被害回復を図っています。

編集後記

荒木公樹

去る五月三〇日、建築家の狩野忠正先生が
逝去されました。心より哀悼の意を捧げます。

先生は、近畿建築士会協議会が発刊して
いた『HIROBA』の編集に携わり、一九九〇
年から一九九四年の四年間にわたり編集長を
務められました。本誌の二〇一五年四月号の
インタビュー企画「建築人」の取材にて、わ
れわれは療養中の先生にお世話になりました。
狩野先生は、二〇〇五年二月の『HIROBA』
の休刊に際し、次の言葉を残されています。

「雑誌『HIROBA』の有効な働きは、建
築分野における人的な交流にある。近畿地
区に住む士会会員とは、日常にあって会合
することができ。士会という共通基盤があ
るからなのである。(中略)ただ機能一
点張りではなく、技術が一人歩きするもの
でもなく、人間の手技があつて建築は生命
を保つことができる。私達は今いる近畿を
重視しなければならぬ。そこから何が可
能かを見極める必要がある。今近畿の技、
個性を静かに見つめなおす時なのである。」
われわれは、この言葉の実現をめざし、
編集に取り組んでまいります。

建築人 7

2018

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門
編集	建築情報部門『建築人』編集部
部門長	飯田英二
委員長	牧野隆義
編集人代表	荒木公樹
編集人	河合哲夫 北 聖志 曾我部千鶴美 橋本頼幸 丸子勇人 茂籠一之 若江直生 母倉政美
事務局	山本茂樹
印刷	中和印刷紙器株式会社

アウトドアライト

ZERO

LANDSCAPE LIGHTING ZERO

ベーシックなフォルムに最先端のLED照明技術と
最高の質感を持つワンランク上の屋外照明シリーズ

重耐塩仕様
標準化

全製品が重耐塩仕様で、海岸より200m以内の場所でも安心

塗装色の別注
同一価格

別注のカラーオーダーでも、カタログ表記と同価格で対応

SERIES LINE UP

- SPOT LIGHT
- LOW POLE
- MIDDLE POLE
- BRACKET
- FOOT LIGHT
- GROUND LIGHT
- INDIRECT LIGHT
- CEILING LIGHT
- DOWNLIGHT

[ZERO]スペシャルサイトURL

<http://www.lighting-daiko.co.jp/zero/>



大光電機株式会社

大阪商環境営業部 / Tel. (06) 6222-6260 Fax. (06) 6222-6285

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7 高麗橋ビル

DAIKO
<http://www.lighting-daiko.co.jp>



西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局舎）
NTTファシリティーズ 柳樂和哉

1921年、旧京都中央電話局西陣分局舎として逓信省技師 岩元禄によって設計され重要文化財となっている電話局をコワーキングスペースとして活用するプロジェクトである。

活用にあたり耐震診断を行ったところ、木造部分のlw値が0.18と低く耐震性を確保する必要があった。また、重要文化財のため外観を保存しながら再生することが求められた。調査の過程で、既設天井内の木組や、二重床下の空間等、この建物が1920年代前半に設計された電話局特有の空間のポテンシャルを持っていることが分かった。さらに、700枚近くの過去の改修図面や様々な資料によって歴史を紐解き、混構造形式の意味（手動交換員の生活空間:木造、通信の生産空間:コンクリート造）を明らかにした。改修設計に取り組む中で、新たに要素を加えるのではなく、歴史を紐解きそこにある空間に意味を見出した。

3階は約100年前の木造小屋組みを露出させ、天井面のブレースによる耐震改修を行い、外観だけでなく比叡山をはじめとする京都の山並みへの眺望も保存した。2階は電話交換室の配線のために作られていた450mmの二重床を床スラブまで部分的に下げ、レベル差によって緩やかに仕切られる広場的な共働スペースとした。各階ともに隠れていた建物の成り立ちの一部を表出させ、電話局の歴史の重層性を感じられる空間とした。電話をつなぐ電話局としての機能が失われた既存の空間に新たな価値を見出し、人と人をつなぐ場を目指した。

撮影：エスエス大阪 津田裕之
第63回大阪建築コンクール渡辺節賞奨励賞受賞作品

■プロフィール

柳樂和哉
1985年 生まれ
2009年 京都工芸繊維大学工学部
造形工学科卒業
2009年 株式会社NTTファシリティーズ入社
2016年 京都大学大学院工学研究科
建築学専攻修士課程修了
現在 株式会社NTTファシリティーズ
関西事業本部

■建物データ

建築主：西日本電信電話株式会社
一般社団法人 Impact hub Kyoto
用途：事務所（コワーキングスペース）
規模：地上3階 RC造一部木造
敷地面積：4584.75㎡
建築面積：2112.88㎡
延床面積：4738.60㎡
所在地：京都市上京区

